

「市民の声」収集の

考えを問う

(公明党西条市議団)

問

市長は、先の市長選挙当選時の第一声で、地域格差を是正するため市民参加のまちづくりを掲げ、市民とともに新しい西条をつくっていく、と述べられた。更に、市民の声を市政に反映させ、市政を再生させていく方針や合併協定書の原点到立ち返り市民の意見を聞いて方針を再検討すると述べられたが、今回の新庁舎建設問題における方針転換のいきさつからは、市民の声をどのように収集し、どのようにまとめたのか理解できない。市民の声を聞く手法、また、意見の集約とその分析、判断について、どのように考えているのか。

答

現在の西条市が直面する諸課題の解決には、市民との対話を常に心がけ、市民の声を市政に反映していく姿勢が必要であると考えている。

市長選挙を通じ、市政の主役は市民であり、その声に対して真摯に耳を傾け、心を一つにして市政運営に当たることを訴えてきた。そうした声は、各界・

各層の市民との対話の中で生まれてきたものであり、庁舎問題はその象徴であった。

庁舎問題に関しては、順序は逆になったが、工事中止によるリスクなどを勘案し総合的に出した結論であり、この結果については今後住民説明会を開いて直接説明し、理解を得ていききたいと考えている。

今後においても、市政の原点は市民との対話にあると思っており、多くの市民と身近に接する機会を設け、丁寧に説明することで合意形成を図っていききたい。

市政運営の原点とは？

(市民クラブ)

問

市長は、現在の市政は市民との対話不足であることを指摘し、市政の原点は市民との対話であると述べられているが、具体的にどのような方法で市民と対話していくつもりなのか。

また、今後の新たなまちづくり施策の展開について問う。

答

市政の原点は市民との対話であり、意見の聴取と説明を繰り返しキャッチボール



地域審議会

の充実を図り、市独自の奨学金制度導入による医師の確保や小・中学生の医療費の無料化なども順次検討していきたい。

どう守る？

西条の水

(無党派)

問

市長が進めようとしている上水道整備の問題を含め、水中生物の激減や地下水の低下、塩水化の進行など、本市の水事情について、どのように理解しているのか。

また、「政治生命をかけて水は絶対に守り抜く」という自身の言葉の重さをどのように考えているのか。

答

水事情については、本市に限らず、地球温暖化に伴う気候変動、農地や森林の荒廃、外国資本の森林買収など、そのリスクは増大している。本市においては、平成19年から道

前平野地下水資源調査解析事業を実施しており、地下水位の低下や塩水化を防ぎ、地下水を継続的に利用可能にするための検証を行っている。また、市の水問題協議会幹事会において加茂川の水の活用について検討し、



水の都西条の母なる川 加茂川

水資源の科学的な検証や論理的な議論の内容を分かりやすく伝えるとともに、市民の意見を反映して、水資源を保全するための地下水保全条例と地下水管理計画を策定したいと考えている。

また、市長選挙を通して、自然の摂理を無視して流域を超えて分水をし、まちをつくっていく時代は終わったことを主張してきた。従来から、西条の水を守るという立場で発言をしてきたが、今後も西条の中でしっかりと水を活かしたまちづくりを行い、政治生命をかけて西条の水を守っていく決意である。